

歴史に学び、お互いから学ぶ心

牧野 直子

柳田邦男さんの講演会に参加して



今年は戦後 80 年。80 年前の 8 月に広島に原子爆弾が投下され、8 月 15 日ようやく戦争が終わりました。私は戦後生まれの団塊の世代です。両親から戦争については子どもの頃から色々聞いていますが、中々それを次世代に伝えることができていません。そんな中、私はいとこからの情報で、

9 月 14 日（日）に広島県廿日市市で、柳田邦男さんの講演会があることを知りました。彼の著書「空白の天気図」についての講演会でした。私は文庫本「空白の天気図」を持って廿日市のホールに行きました。

「空白の天気図」から学ぶ

会場には私のいとこも来ていました。実は私の母は 9 人兄弟の長女で、村尾誠という弟がいました。彼は京都大学の荒勝教授の研究室の助手として、広島の実験投下のすぐ後に現地調査に行き、たまたま 1945 年 9 月 17 日に大野陸軍病院に滞在中に枕崎台風の山津波に遭ってこの世を去りました。京都大学の調査班の 11 人が犠牲となったとのこと。その慰霊祭が 80 年後の今年現地でわれ、その翌日に柳田邦男さんの講演会があったのです。彼がこの本を書いたのは 50 年前。今年 89 才です。彼の話を通じて直接聴ける貴重な機会だと思い、廿日市まで行きました。講演の後、「大野陸軍病院の惨禍に学ぶ複合災害への対応」という講演やシンポジウムもありました。国内外の災害



現場で活動されている京都大学のヘルスセキュリティセンターのドクターの話もありました。「顔の見える関係」の大切さを訴えておられました。

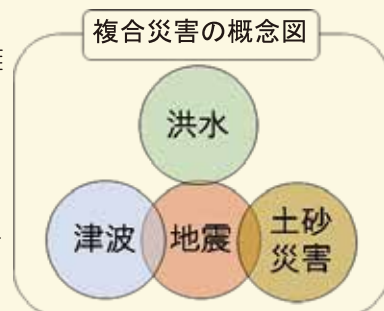
広島では、被爆直後の台風の被害で多くの犠牲者が出ました。気象情報が軍事機密だったこともあり、気象台がきちんと機能していなかったために情報がない中でいきなり台風に見舞われたのですから。

「空白の天気図」と当日もらって来た沢山の資料を事務所の結文庫にも備えておきたいと思います。

複合災害の時代に備えるために

今、世界中ではあちこちで戦争が起こり、また気候変動で台風など複合災害の危険性も増えています。「弱り目に祟り目」という事態は今後ありえます。しかも「少子高齢化」がすすみ、「人生 100 年時代」と言われています。

まずは自分の体力を維持すること。災害への備えをしておくこと。地域コミュニティのつながりをもつこと。今の時代に求められる「結い」の力を、私たちの活動で育てていきたいものです。



参照：東京理科大学創成理工学部
社会基盤工学科水理研究室

「自立」と「共助」

「結みのお」創立 16 年。今年で 17 年目です。会員も高齢化してきています。今後の「結みのお」はどうあればいいのか。「助け合い」活動も「助けてほしい人」が増えて、「助けたい人が」減っていくことが懸念されます。体力や知力の低下は誰もが経験するもの。だからこそお互いの持てる力を出し合って、信頼の絆を育てていきたいと思います。